

東芝深谷 OB会会報

[第 2 0 号]

OB 会 事 務 局
0 4 8 (5 7 4) 2 0 1 4

ホームページ <http://www.lets-happy.net/toshibaob/>

地域における社会貢献



東芝深谷工場
管理部長 小村 裕

工場は昭和 4 0 年に深谷の地で操業を開始して今年で 4 2 年が経ちました。この長い歴史の中で多くの方々が東芝をご卒業され OB・OG となりましたが、ボランティアをはじめ様々な活動を通じて元気に地域社会に貢献されていると伺っております。

工場も、東芝グループの経営方針の一つである CSR 経営（CSR＝企業の社会的責任）を遂行すべく、地域貢献活動を強化推進していかねければならないと考えています。

現在、地域貢献活動として、サマーフェスティバルを始めとして、月に一回の工場周辺清掃や産業祭に合わせた仙元山公園清掃等のボランティア、福祉作業所による作品販売の場の提供等を行っています。

最近では、活動の本気さ、即ち、その社会貢献活動が本当に身についた活動になっているか、選挙で言えばマニフェストによる政策の競い合

いが当たり前になって来たように、地域貢献活動においても、単なるバラマキではなく本当に地域のことを考えた活動になっているかどうか、企画や活動の中身が問われていると思います。

今年のサマーフェスティバルは「地域とともに未来へ躍進」をスローガンに、昼型、面展開（同時進行的にいろいろなプログラムを進行）、強化スポーツ OB によるスポーツ教室、東芝科学館の工作教室、環境コミュニケーションコーナーや工場の製品紹介コーナー等従来とは少し違ったかたちで開催しましたが、お陰様で多くの地域住民の方々に来場を頂きました。

記録的な猛暑であったこともあり従来の夜型を懐かしむ声も頂いているのですが、次世代育成支援、未来を担う子供たちの健全な育成へのお手伝いをさせて頂きたいと言う実行委員会の思いを感じていただけたでしょうか。

OB・OG の皆様の忌憚のないご意見を頂き、来年以降の行事に反映し、より一層地域とのコミュニケーションを深めて行きたいと思っています。どうか今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



東芝野球部 OB による野球教室実施



工場周辺のゴミ拾いを実施する従業員

『教育の片棒を担う』

深谷 渡部 和夫

私は平成十五年から深谷市の交通指導員をしている。

小学校の登校日の朝は、七時半頃から八時過ぎまで雨の日も風の日も担当の交差点で交通指導するのが日課になっている。

「押しボタン信号」の設置されているその交差点は、小学校に通う小学生の他、通勤の人、散歩の人、中学生や高校生など老若男女たくさんの人たちが行き交う社会的空間である。

そこでの交通上の安全と秩序を維持するのが仕事である。通常は、交代で出てくる二人の保護者と一緒に活動する。

交通指導員としての四年間が過ぎ最近の子供たちや先生、保護者、また、通行する大人達と接しながら、あるときは葛藤も経験しながら今時の子供たちの教育について改めて考えさせられる。

最初の頃、「歩行者用押しボタン」をなかなか押してくれなかった子供も今は、黙っていても自分で押し信号が青に変わるのを待つようになった。

交差点に立っていない下校時



キチンと信号を守っていると信ずることを目標に「ボタンを自分で押して渡る」というルールを「信頼には信頼で応えてくれる」という信念で「信じて待つ」気持ちでやってきた。登校日の班長さんは今では信号が青から赤に変わるタイミングを覚え、点滅になる前に待つようになったり、上級生が下級生の面倒を見る光景を何回も目にした。

本来、子供は賢く、優しい気持ちを持つているのだからその良い面をもっと褒めてやるのが今の大人、先生に必要なのではないだろうか。いじめがない環境でのびのびと育つて欲しいと思う。自分の子供の頃を振り返ると大人のちよつとした一言がずっと記憶の中に残っているものである。

自分の一言や動作が「いい意味で」子供たちの記憶に残るよう心掛けている。

『さわやか深谷・健康を考える会』



生方 文人

このサークルは、深谷市主催「市民健康大学」修了者の有志が集まって出来たサークルです。

「市民健康大学」は、平成十一年度にスタートして、今年で九回目の講座が進められております。

所管は、深谷市保健センターで、高齢化社会を迎え、病気を治すという発想から健康をつくるという発想への転換を図り、健康なまちづくりに向けた健康講座の内容になっております。

この健康大学の第一回修了者の有志が集まって出来たサークルが、「さわやか深谷・健康を考える会」です。私は、第二回の修了者でこの会に入会し、現在、会長と事務局長を兼任でやっております。

活動内容は、現在の会員数は、六十二名で退職者・主婦など五十代、八十代で構成されています。

毎月、健康ウォーキングと健康に関する懇談会を行っています。

「健康ウォーキング」は、一目散に歩くだけでなく、色・におい・音・手触り・食感など「五感を感じる」ウォーキングとおしゃべり・感動のウォーキングをしております。

深谷市内・近郊を季節に合わせ、約10kmほどのコース設定をしています。

東芝OBの方が8名居ります。皆さんも参加してみませんか？

金鑽神社の裏山御嶽山に登つてみんな一緒に記念写真



『不登校について』



堀 米 信 三

私は中学で不登校の子を指導しています。新聞やテレビで小中学生の事件が報道される様になりました。自分の周りにも暴走バイク、夜たむろ、の少年少女を目にします。

昔、こんな子は、親にこっぴどく叱られ、なぐり飛ばされたでしょう。今は、悪い事をしてても理屈をこねて反抗する生徒がいます。

私は時に胸ぐらをつかんで理屈なしで言うことを聞かせる場合もあります。

身近な話ですが、ある家を訪ね世間話をしている内に今の中学はと言つて、おばあさんが語り始めました。

「実は内の孫も中学二年から不登校になった。グループのリーダー的存在だったので何かあるといつも先生に叱られる。そんな事で不登校になった。中学三年になり担任が変わったから学校へ行ける様になった」。

先生先生といって教科書を教えるだけでなく、教師はその子が社会に役立つ人間に授業を通して教え、人生を語り指導するのが本当だろう。人生観を授業で語れる先生が何人

全国平均で30〜40人に一人

は不登校。昔はいなかったといつてもこれが現状なのです。よつてどう対応していくかが課題です。

今、深谷市では数百名の生徒が色々事情により不登校になっていきます。不登校とは年間で30日以上欠席した児童生徒をいいます。

『グラウンドゴルフを通じて』



伊 藤 暢 雪

最近のグラウンドゴルフの人気は益々増加しています。深谷市内はもとより埼玉県でも数万人の人がクラブ一本とボール一個で公園や野球場、多目的広場などで健康増進を目的に頑張っています。

深谷市でも市民大会を年4回、その他にも協会の大会や公民館対抗、老人会の大会やシルバー大会など毎日どこかでその姿が目につきます。

私たちOB会の仲間の方々もその世話役として案内から競技当日までお手伝いや大会の中心メンバーとして活躍しています。

私も競技部会長として毎回ルールや競技上の注意など説明をして



います。これから仲間たちと一緒に健康増進と地域の発展のために頑張っていこうと思っています。

『スクリーニング工程永友会』



T・K

昭和四十四年深谷ブラウン管工場が竣工となり、東洋一のブラウン管とテレビの一貫生産工場の完成と同時に堀川町工場のブラウン管の生産は終息となった。

この年人工衛星アポロ十一号が月面着陸の放映もあり需要が急増し多忙の日々となった。私はブラウン管工程のスクリーニングを担当していたが四十六年には勤務体制が2交代から3交代へと変更になり、そのため人員も三分の一の増員になったが充足がスムーズにいかなかった。翌年にはブラックストライプ管の工程が導入され人員不足+新技術の導入で工程は大混乱になってしまった。

永友会の発端はここから始まる

ものばかり、生産歩留まりも安定せず最悪、加えて人員不足、求人難の世の中、正規従業員を募集するもなかなか定員に満たないし定着率も非常に悪かった。

そこで堀川町からの転勤者の2〜3人が集まり何気ない話し合いをしているうちに次々と仲間が増え二十人程度となり、屋外での食事会や懇親会を行い問題解決の話し合いを行った所グループ内の「和」が大切であることで一致しグループ一丸となつて「和」を広げていった。それから職場も徐々に変わり笑顔も出るようになり歩留まりも安定してきた。

昭和五十年に会の名前を「永友会」と命名しそれ以降も活動を続け、平成七年には奥さんも参加するようになりました。保養所めぐりや新年会、忘年会等も開催しており家庭の問題や個人の悩みの相談も行い家族ぐるみのお付き合いが定年退職した今も続いている。

他の職場にも色々なグループがあったことは承知しているが現在も健在で続いているグループは耳にしたことはない。我が「永友会」は会員が一人になるまで続ける所存です。どうか見守ってください。

『深谷駅南口の清掃実施』

石井 忠孝

OB会として駅前のボランティアを以前は実施していましたが、GCの廃止に伴い暫らく休んでいました。

今般、深谷駅南口のけやきの枯葉が落ちていた状況を見て、清掃することを決定し十二月一日、七日と2回実施し、次は十五日と合せて3回の予定です。

一日は風も無く良い日でありましたが、それでも綺麗にしたなと思ったら風で葉が落ちて来る、そんな状況でした。

駅前清掃は他にも実施しており、当初考えていたより落ち葉は少ないような気もしました。それでも大きなビニール袋で5個集まりました。参加の皆さんご苦労さまでした。



『東芝サマーフェスティバルに参加』

OB会店長 小林哲嗣

今年の夏は猛暑で各会員の皆様におかれましては健康面に気苦労なされたことと思います。過ごしやすくなったと思つたらすぐに寒い日が来る。目まぐるしく季節が変わっていくのを実感しています。

今年は夏祭りの名前も変わりサマーフェスティバルIN FUKAYAとなりました。その中でOB会の出店は昔ながらの子供と遊ぶうでした。遊び道具、模擬魚釣り、竹馬、ベイゴマ、折り紙飛行機、竹細工等



久しぶりに仲間と懇談(右)
子供たちに遊具の遊び方を教える(上)

でした。各担当者は真夏の太陽の下、汗ダクダクで奮闘しました。本人も楽しみながら子供さんお客さんに教えていました。

魚釣りでは大物が釣れた人にはカブトムシの賞品が出ることで人気がありました。釣れない子供さんはお母さんのお尻に抱きつき泣く子・・・担当者の困る顔が見受けられました。

ともあれお酒を飲んで、汗をかいで、笑って、上手でないような音頭を踊って楽しい一日でした。来年はもっと大勢の方の参加をお待ちしています。

【編集後記】

本号は地域対策やボランティア活動を取り上げ執筆いただきました。会社を始め会員各位が日頃何気なく活動している一つ一つが地域の活動だと思えます。

会員の中には自治会長や民生委員をやっている人、子供たちに運動のコーチや指導監督をやっている方、老人福祉や障害者に対するボランティア活動、また、会員の奥様方が地域で活動されていることなどあちらこちらで聞きます。

東芝が深谷に進出してから四十年を経過、名実ともに地域の方々と一緒にあって更に頑張っていこうではありませんか。

本号から編集委員が変わりました。今後ともご愛読をお願いします。

編集委員

幹事 松原 由幸
幹事 三井 敏英

小暮金太郎さんが十九年六月
土田 順一さんが十九年八月
小山 捷司さんが十九年九月
ご逝去されました
謹んでお悔やみ申し上げます